

補足資料

小松市埋蔵文化財センター
下濱 貴子

八日市地方遺跡の概要

①小松市周辺の地形

石川県西部に位置する加賀平野は、手取川が形成する扇状地を境に、北側を金沢平野、南側を小松・江沼平野に区分される。さらに小松・江沼平野は、丘陵地（能美・江沼丘陵）、台地（東部台地、月津台地、柴山台地）、能美低地（後背湿地、自然堤防、沿岸洲Ⅰ、沿岸洲Ⅱ、沿岸洲Ⅲ、手取川扇状地）に細分する。加賀三湖は台地および沿岸洲に取り囲まれており、月津台地・沿岸洲Ⅱと柴山台地・沿岸洲Ⅰの間には柴山潟や今江潟が、月津台地・沿岸洲Ⅰと東部台地の間には木場潟が分布している。

八日市地方遺跡は沿岸洲Ⅰでも東端部に立地している。

（小岩直人 2019「八日市地方遺跡と加賀三湖」『北前船寄港地 2500 年の記憶』小松市より）

②八日市地方遺跡周辺の古環境変遷

○沿岸洲Ⅰが流入した形成開始（約 7,000 年前頃）形成終了（約 5,300 年前頃）

→比較的短期間で形成

○沿岸洲Ⅱの形成開始期も沿岸洲Ⅰと同様

○今江潟・・・約 5,700 年前には砂質の湖底に変化。約 2,600 年前までこの状況は継続。

弥生時代中期には砂質→泥質に変化（泥質は珪藻分析の結果から、淡水生種が優占する湖水環境だが、海水～汽水生種の産出もわずかながらに認められるため、当時は湖に海水が流入した可能性あり。

○縄文後期～弥生時代・・・八日市地方遺跡周辺では、東側には氾濫原的な環境、西側の砂質の湖底有していた汽水環境が存在していた。

③八日市地方遺跡の中身

・八日市地方遺跡とは

○JR 小松駅東側に 18Ha にわたり広がる

○紀元前 350～紀元前 50 年のおよそ 300 年間存続した大規模環濠集落

・集落の構造

遺跡は沿岸洲Ⅰの東に下る面に位置。中央に河川（埋積浅谷^{まいせきせんこく}）をはさんだ集落。埋積浅谷からは弧を描く何重もの環濠。居住域と墓域を画する。居住域の周囲に方形周溝墓は展開。埋積浅谷両岸で同様の状況。

・集落の変遷

集落Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期に区分。集落Ⅰ期は西側から小規模な範囲、集落Ⅱ期拡大期、集落Ⅲ期には再び西側に収束。

・層位的把握と土器編年

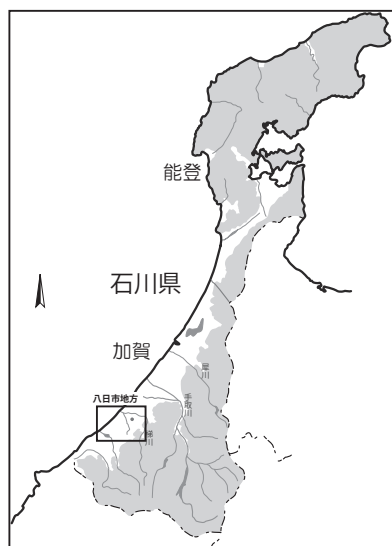
出土した土器を 10 期（10 様相）に区分。そのうち 4～10 期が環濠集落の存続期間。埋積浅谷出土遺物の層位的把握を基準に設定。

・出土資料

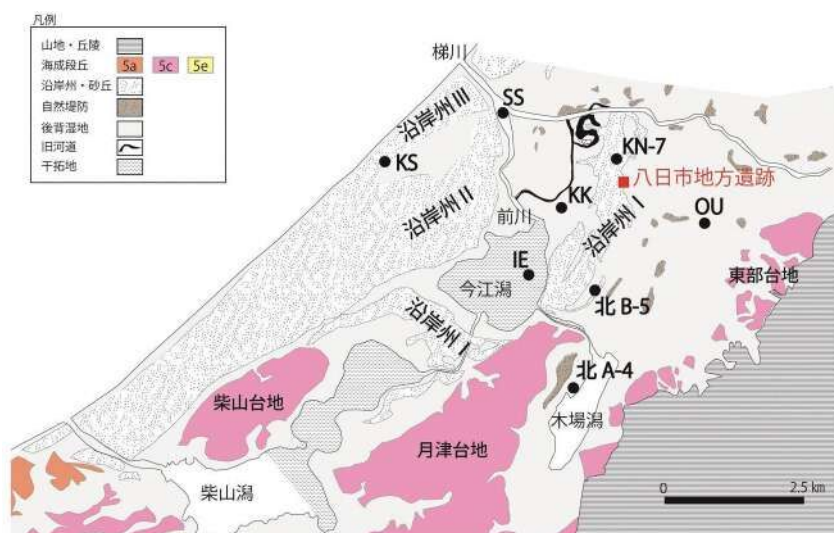
- 出土品の構成・・・土器・土製品、木器・木製品、石器・石製品、銅製品、鉄製品、骨製品
- 土器の特徴・・・在地の小松式土器に加えて、東海地方の大地式土器・貝田町式土器、信州地方の栗林式土器、さらには近江や瀬戸内地方などからの搬入品ないし模倣品が含まれており、広範な地域間交流をよく示す。
- 生産関連・・・翡翠製勾玉と碧玉製管玉に関連する資料及びそれにかかる製作道具も出土しており、管玉生産の実態を復元するうえで重要である。また、木製の鍬・鋤・容器類についても製作工程を如実に示す良好な資料。
- その他の特徴・・・鳥形・魚形・武器形など木製祭祀具が豊富に出土しているとともに、銅鐸形土製品及び小型模造土器なども認められ、多様な形態の祭祀具を用いていた様子が窺える。また、方形周溝墓から出土した祭祀用の土器や碧玉製管玉などが含まれる。

遺跡の発見	●昭和 5年 (1930年)	後藤長兵衛氏による磨製石器の発見
小松式提唱	●昭和12.13年	上野与一氏・後藤長平氏による小規模な発掘調査
	●昭和25年	明治大学と石川考古学研究会の合同で発掘調査
	●昭和27年	日本考古学協会第10回総会
大規模環濠集落と判明	(1952年)	「加賀・小松出土の弥生式土器」として報告
	●昭和41年	橋本澄夫氏により弥生時代後期→中期へ
	●平成5～12年	小松駅東土地区画整理事業に係る発掘調査
	●平成15年	「八日市地方遺跡Ⅰ」刊行
	(2003年)	膨大で多様な出土品、遺跡変遷を示す時間軸提示
	●平成18年	石川県指定文化財 984点
	●平成23年	国重要文化財 1020点
実年代解明	●平成25～28年	「八日市地方遺跡Ⅱ」3分冊刊行
		弥生集落遺跡として八日市地方遺跡研究の発信
	●平成27～29年	北陸新幹線に係る発掘調査
		さらなる膨大でかつ多様な出土品発見
	●平成29年	市と大学連携による確認調査実施

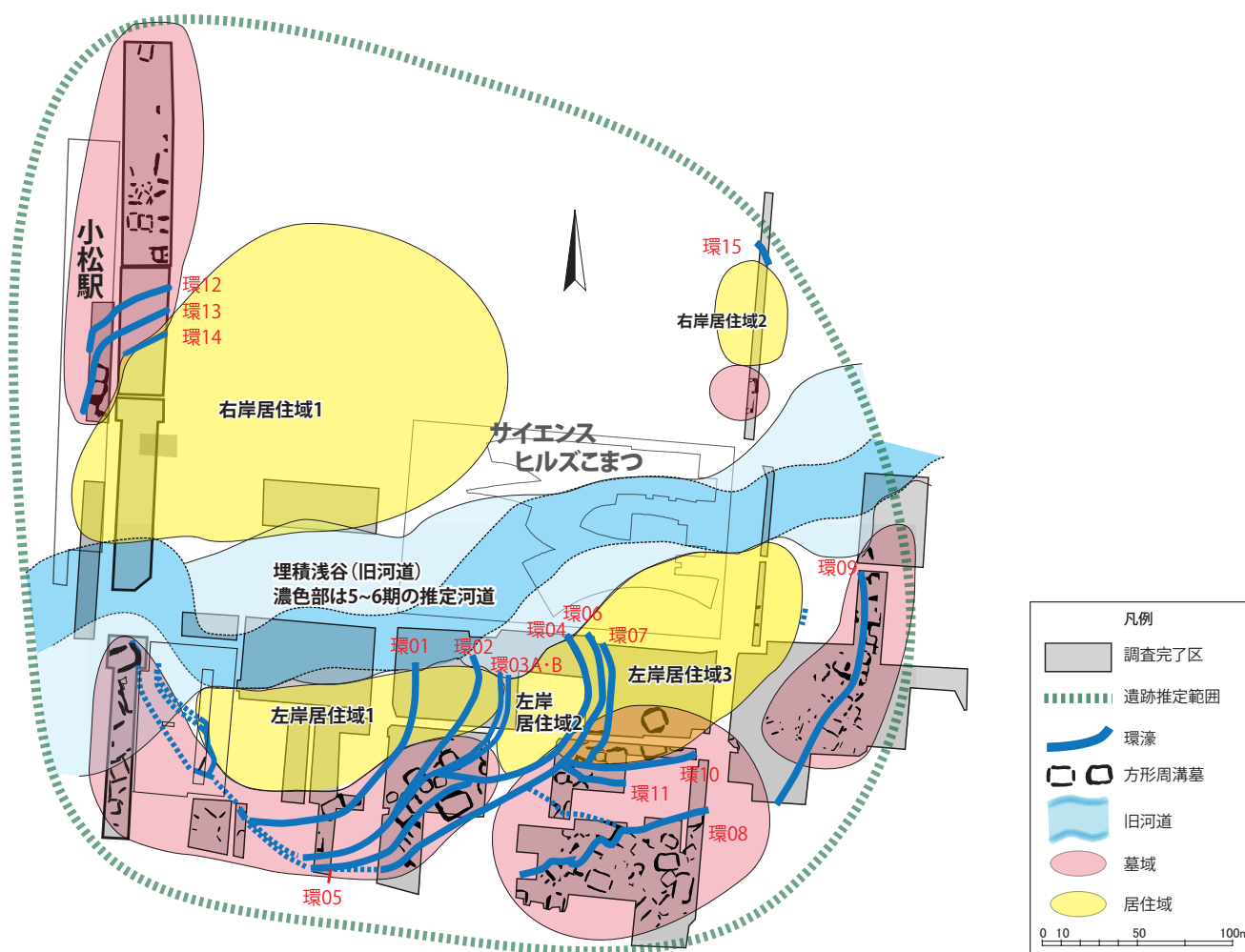
●昭和 49年	苗代割（ナワシロワリ）平地 400m ²
(1974年遺跡地図記載)	宅地造成で一部消滅
●平成 4年	宅地化により遺跡大部分損壊
(1992年遺跡地図記載)	
●平成 4年12月	試掘調査を実施。7.8haと推定
●平成 5～12年	小松駅東土地区画整理事業にかかる発掘調査
●平成 7.9年	北陸本線小松駅付近連続立体交差事業にかかる
	発掘調査
	15haに及ぶ環濠集落であることが推定
●平成24年	日の出～御宮線市道にかかる調査
●平成27～29年	北陸新幹線に係る発掘調査
	15haを超える環濠集落であることが確定



第1図 遺跡の位置



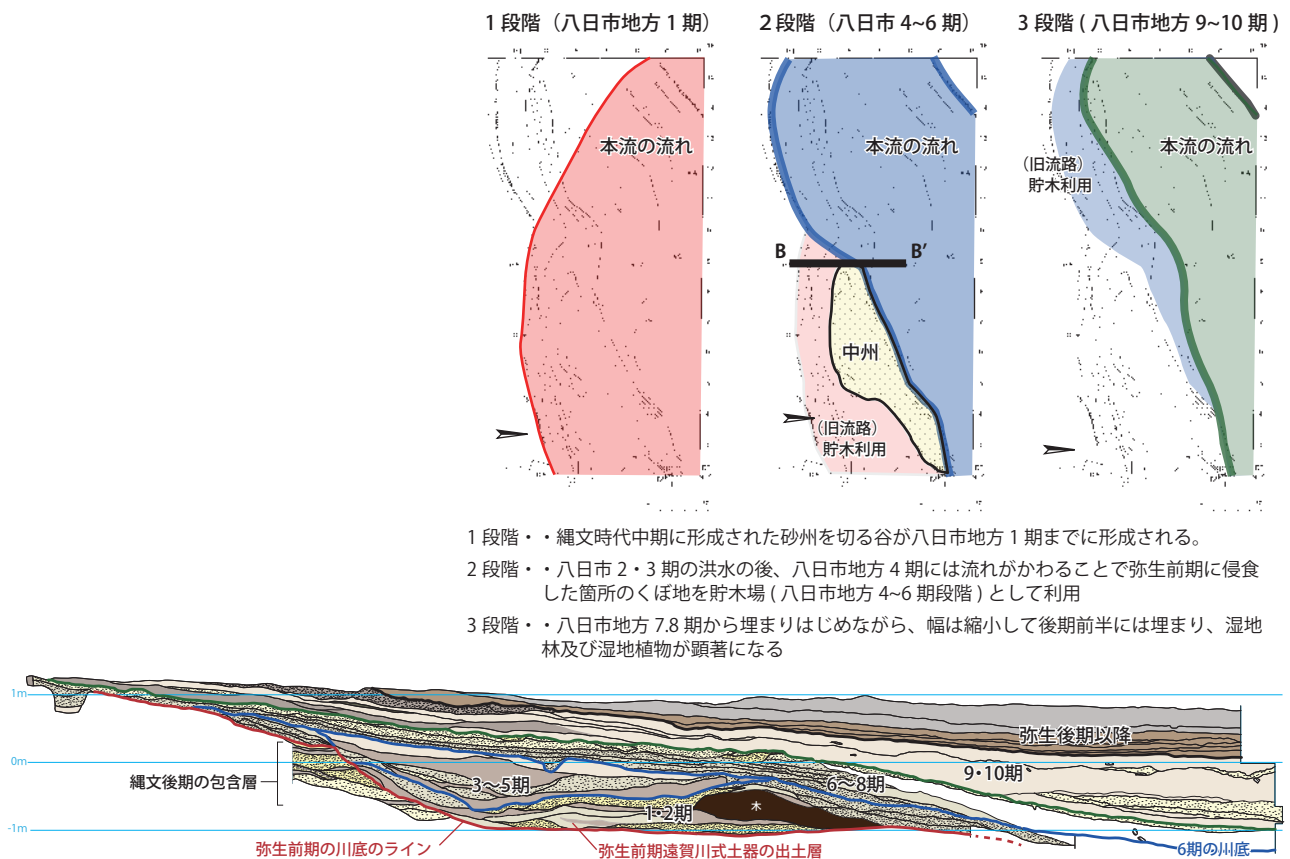
第2図 南加賀地域の地形と遺跡の位置



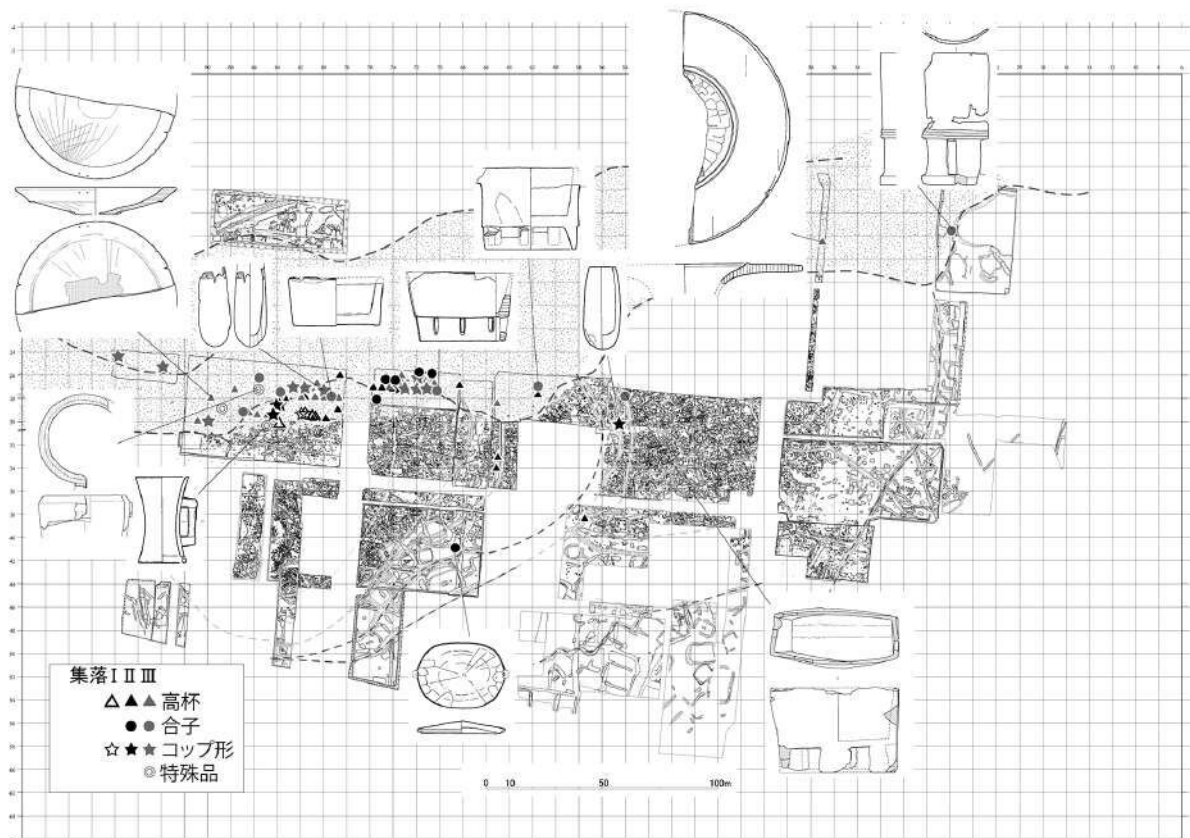
第3図 八日市地方遺跡全体図

時代区分	八日市地方		近畿 編年	西暦			八日市地方 遺跡の変遷	日本列島 の動向	中国・朝鮮半島 の動向	中国 大陸	朝鮮 半島
	集落	土器		AMS	年輪	酸素					
縄文晩期		0					砂層中に縄文後期包含層	西日本に水稻 耕作が拡散			
弥生前期		1	I	-550			★埋積浅谷より、遠賀川式土器出土。 埋積浅谷より遺物散見。			春秋	
		2		-400							
		3					クヌギ・アベマキ等(ドングリ)の貯蔵穴。		BC.403 三晋の成立 (趙、魏、韓)		
弥生中期前葉	I 期	4		-350			★環濠掘削開始。環濠集落の成立。 埋積浅谷肩部に木器貯蔵開始。 管玉生産開始。	金属器使用の 開始		戦国	古朝鮮
		5	II				★環濠再掘削。 居住域拡大。小松式土器の成立				
		6		-300			★環濠再掘削。		BC.312 ~ 279 燕の東方進出		
弥生中期中葉	II 期	7	III	-283+	-250+	-250+	★環濠再掘削。	東日本で広域 な社会変動	BC.221 秦の始皇帝 が中国統一	秦	衛氏朝鮮
		8		-200					BC.202 高祖(劉邦) が漢王朝を興す		
		9	IV	-136	-139+	-107+	★居住域縮小。凹線文系土器の波及 埋積浅谷肩部に 貝層・貯蔵穴(ヒシ・トチ等)		BC.195 衛氏朝鮮の 成立		
弥生中期後葉	III 期	10		-100	-40		★集落廃絶。	鉄器生産の 開始	BC.108 前漢が朝鮮 半島に四郡を設置	前漢	原三国
弥生後期			V	80			★埋積浅谷がほぼ埋まった後、 一時的土器祭祀。	AD.57 奴国王 が後漢に使い (金印賜与)	AD.25 光武帝即位 (後漢のはじまり)	新後漢	

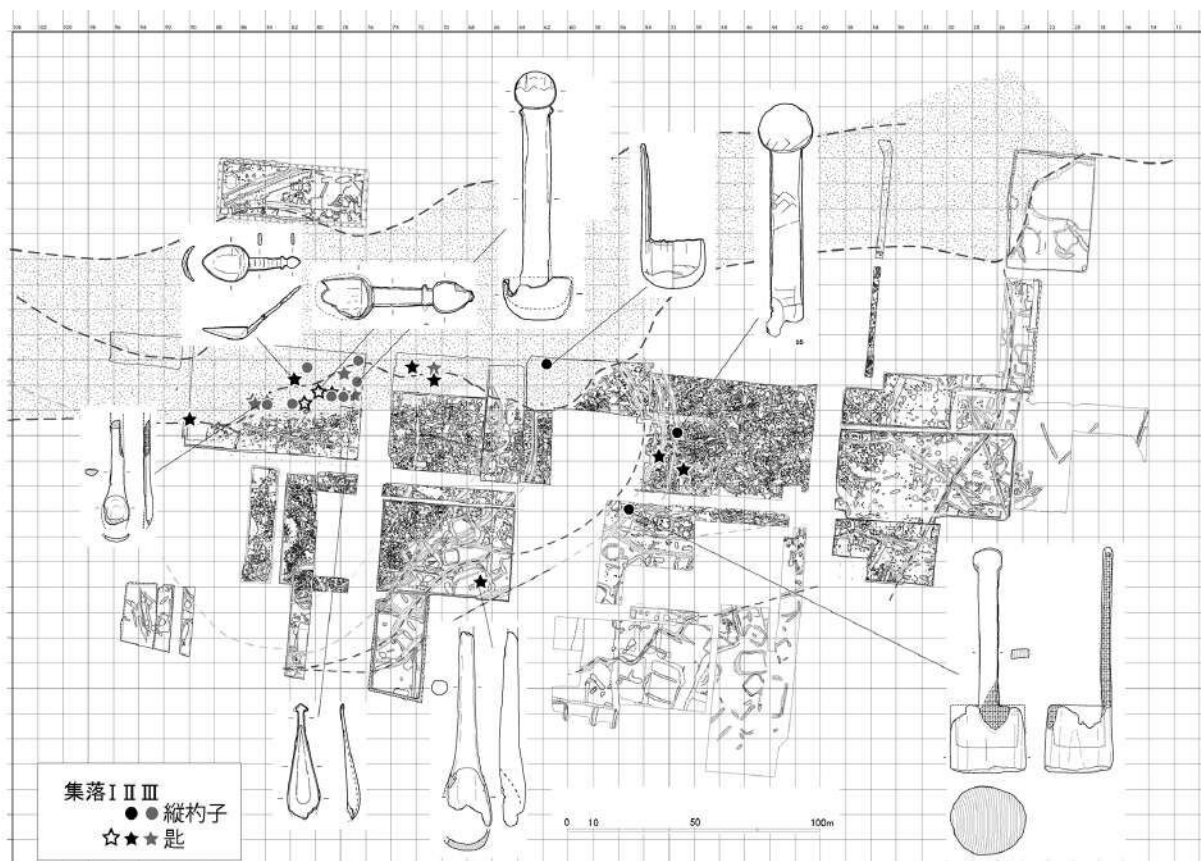
第4図 八日市地方遺跡の変遷



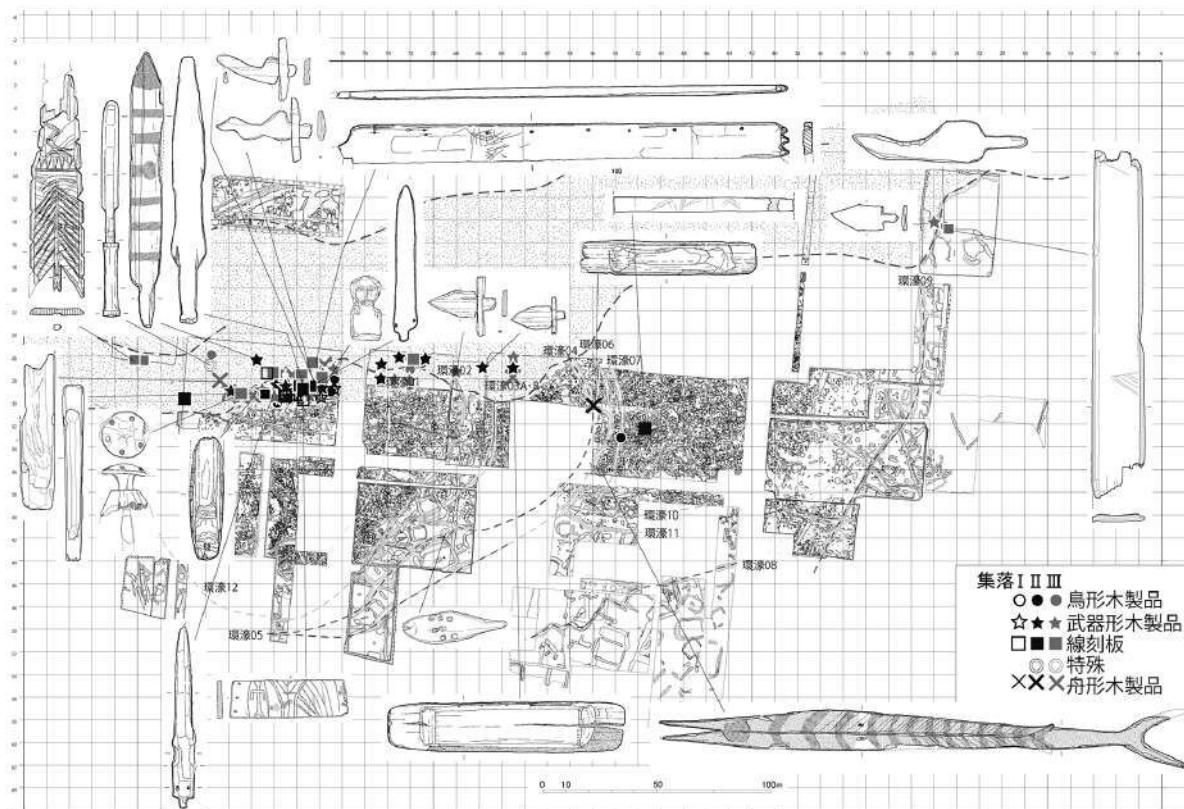
第5図 26 地区 埋積浅谷 B ライン土層断面と埋積浅谷の変遷



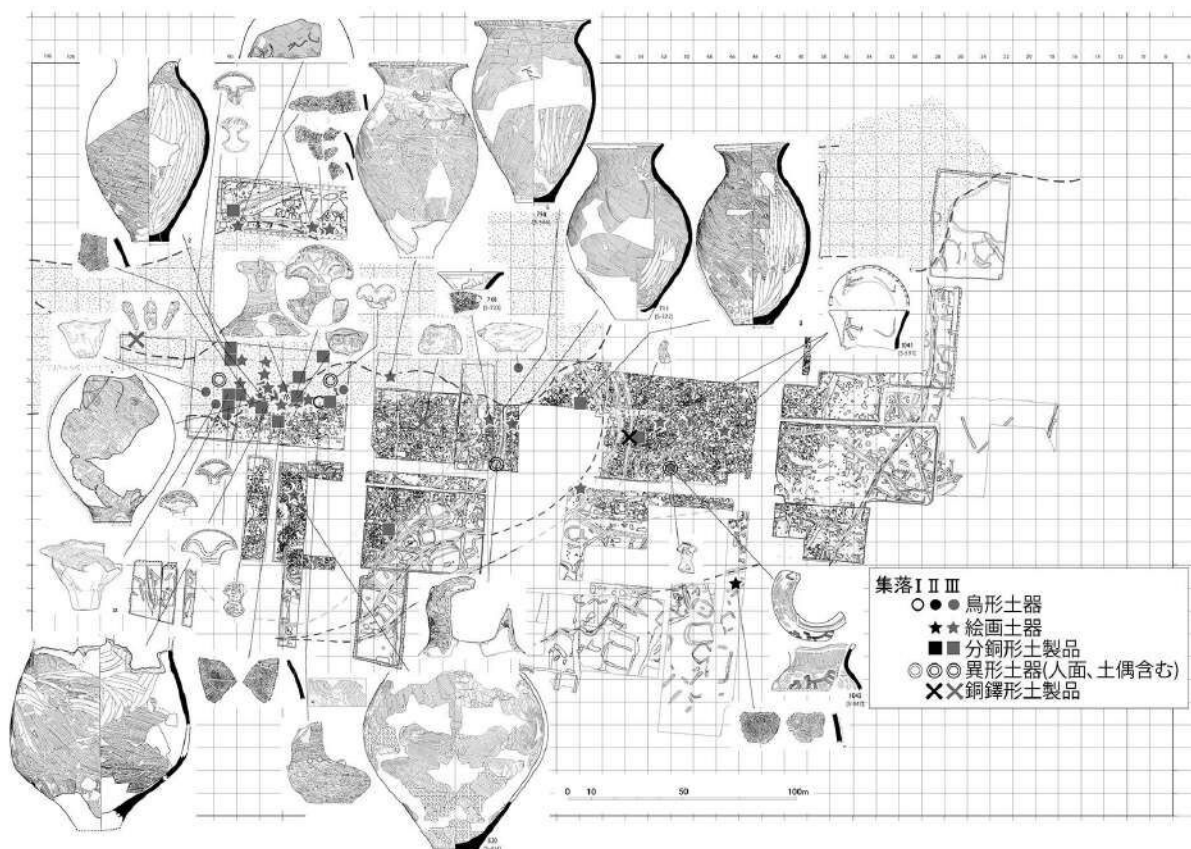
第6図 木製容器出土状況



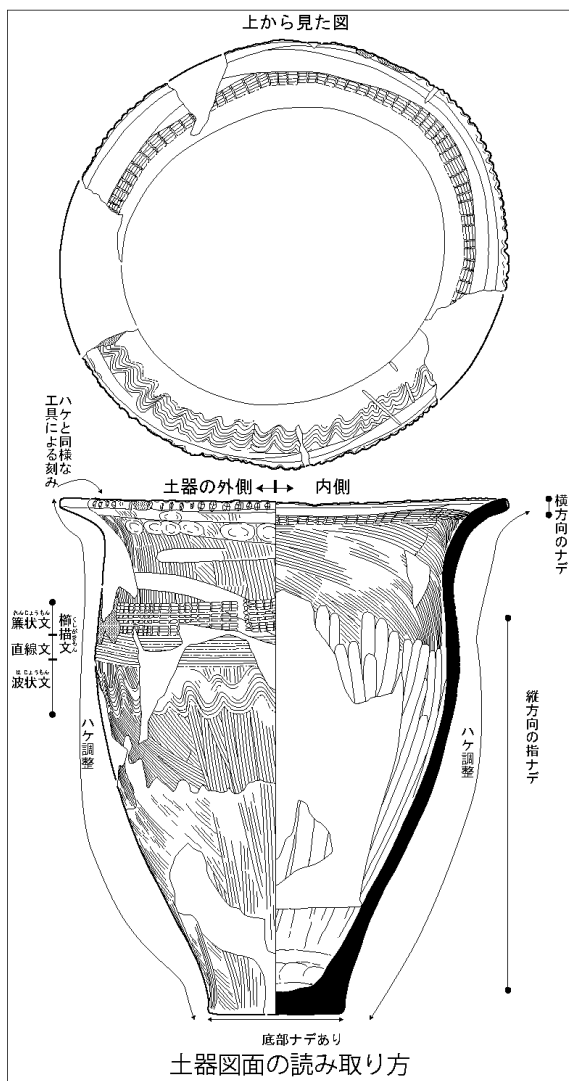
第7図 食事具出土状況



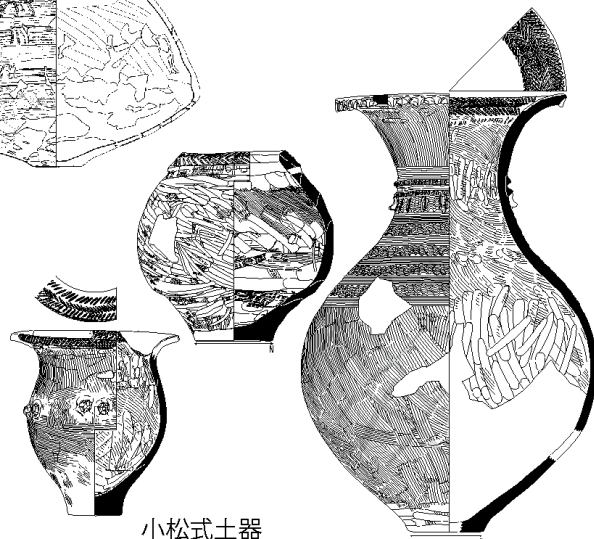
第8図 木製祭祀具出土状況



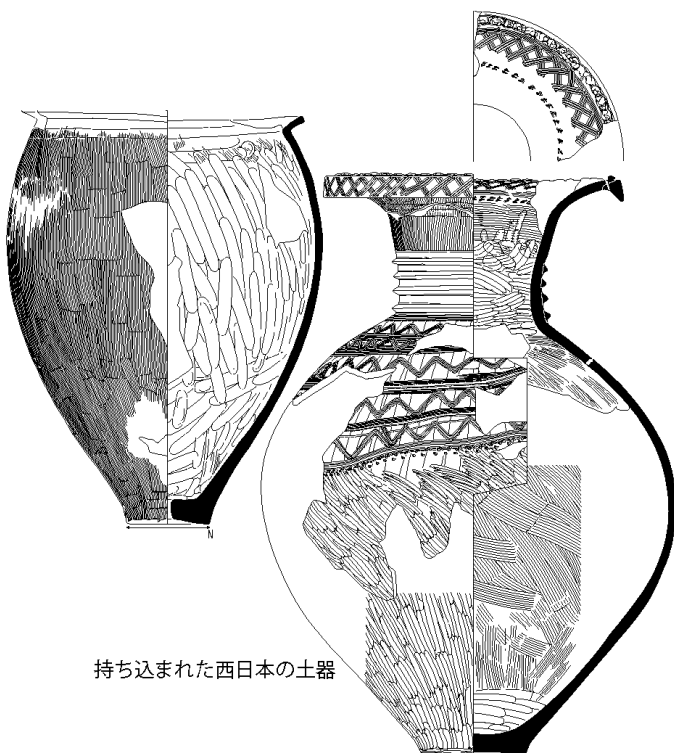
第9図 土製祭祀具出土状況



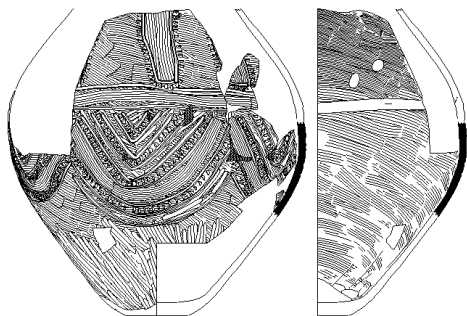
持ち込まれた東海西部
(貝田町式土器) の土器



小松式土器



持ち込まれた西日本の土器



北信越の土器（栗林式土器）を真似て地元で作られたもの

集落Ⅰ期（BC350～BC300）



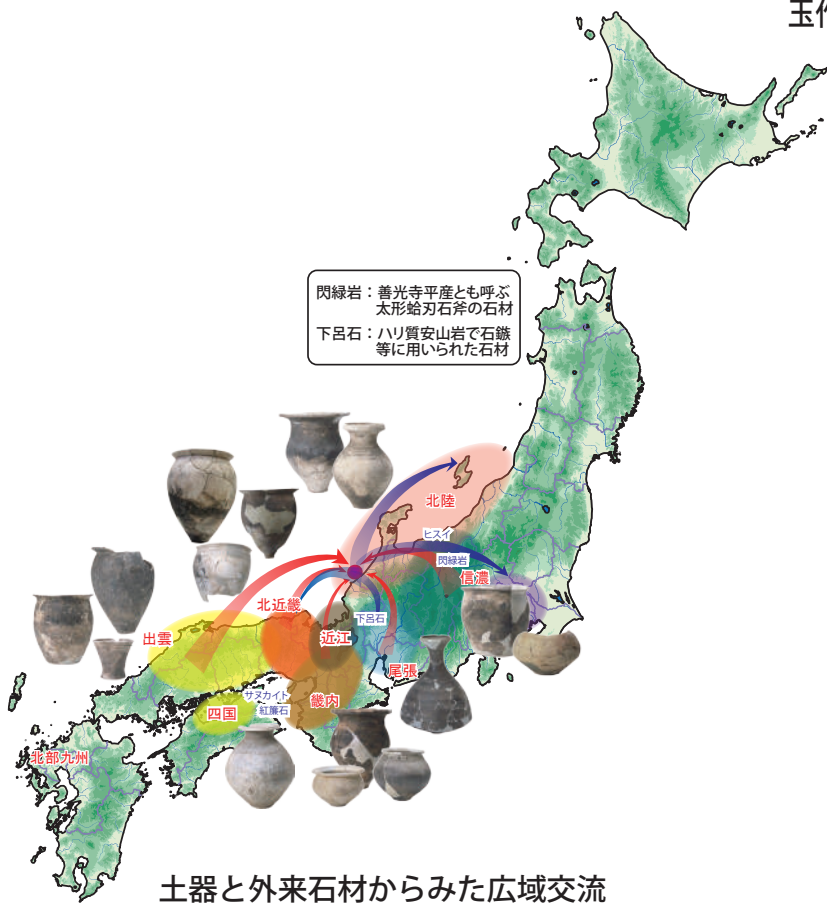
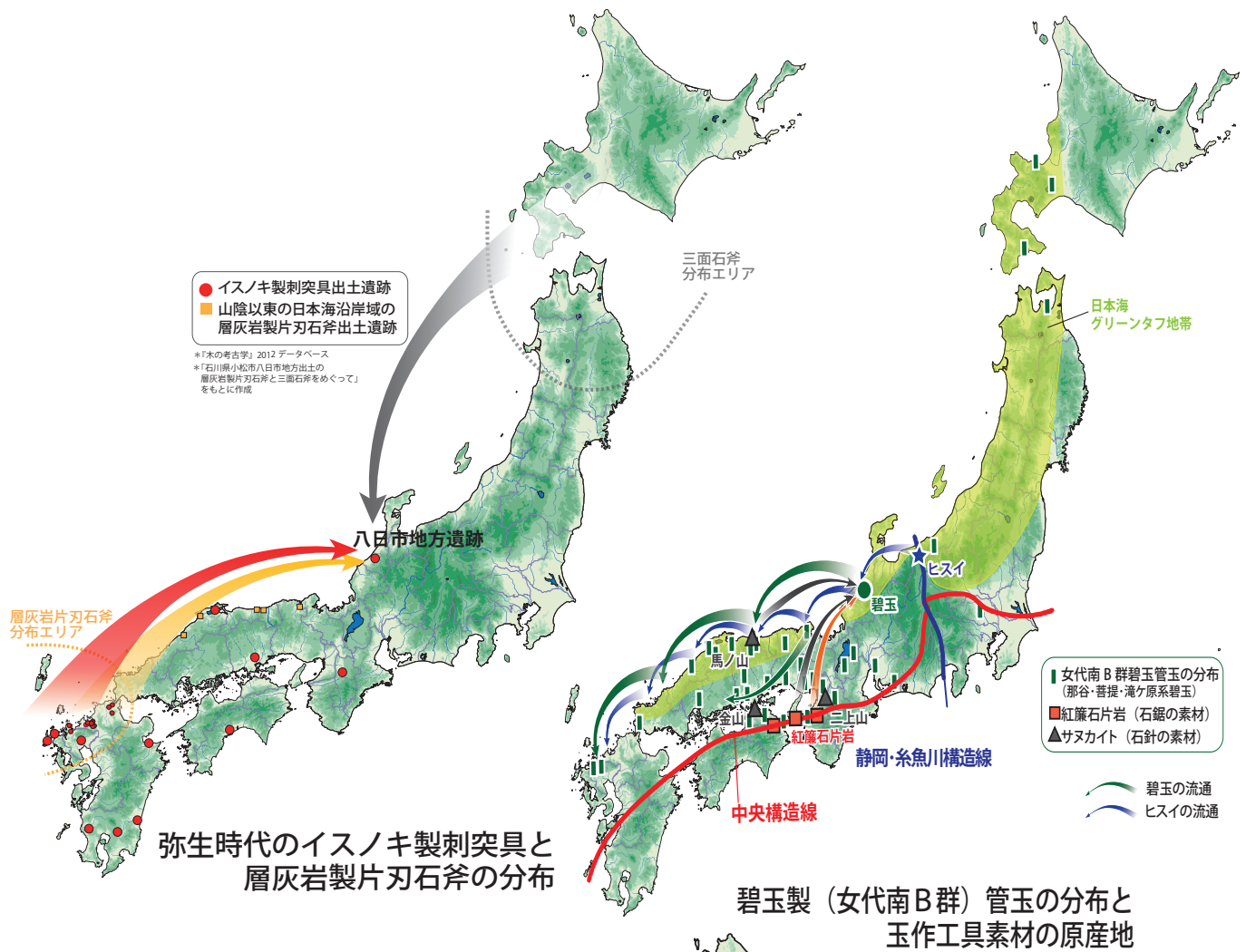
集落Ⅱ期（BC300～BC150）



集落Ⅲ期（BC150～BC50）



第10図 八日市地方遺跡の土器の特徴と流通

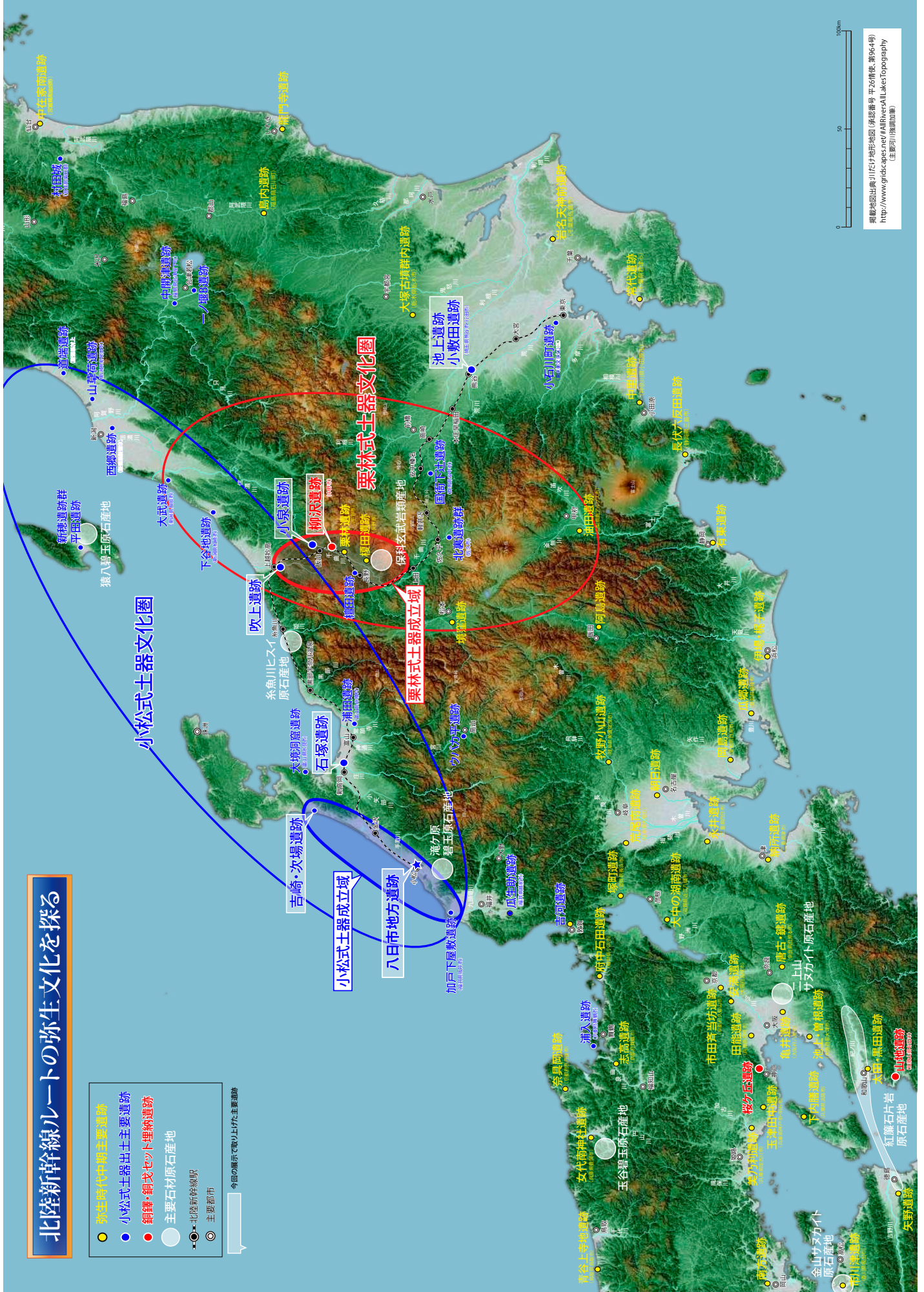


第 11 図 八日市地方遺跡からみた交流の様子

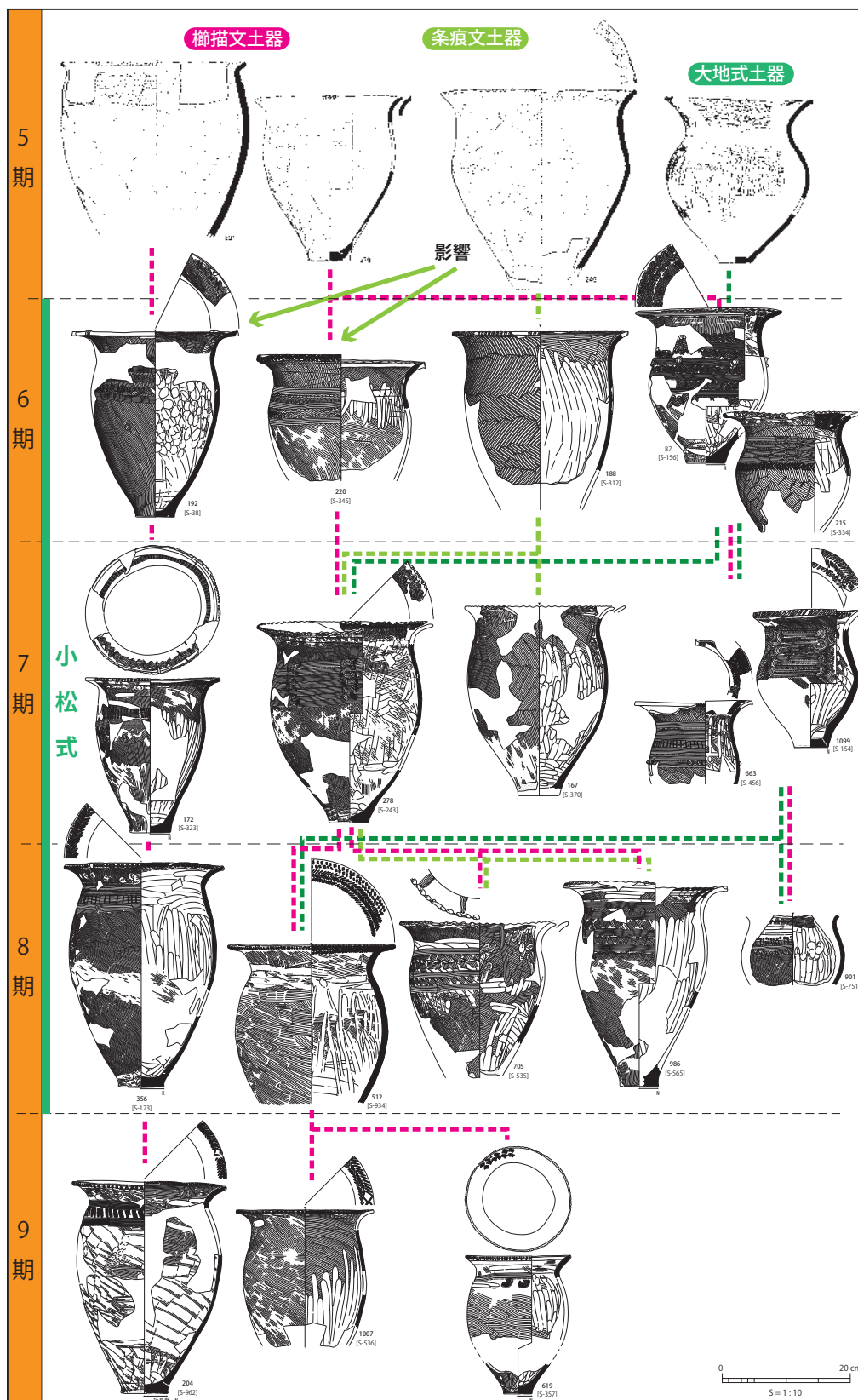
北陸新幹線ルート上の弥生文化を探る

- 弥生時代中期主要遺跡
- 小松式土器出土主要遺跡
- 銅鐸・銅戈・銅矛・銅剣遺跡
- 主要石材原産地
- 北陸新幹線
- 主要都市

今日の県界で取り上げた主要遺跡

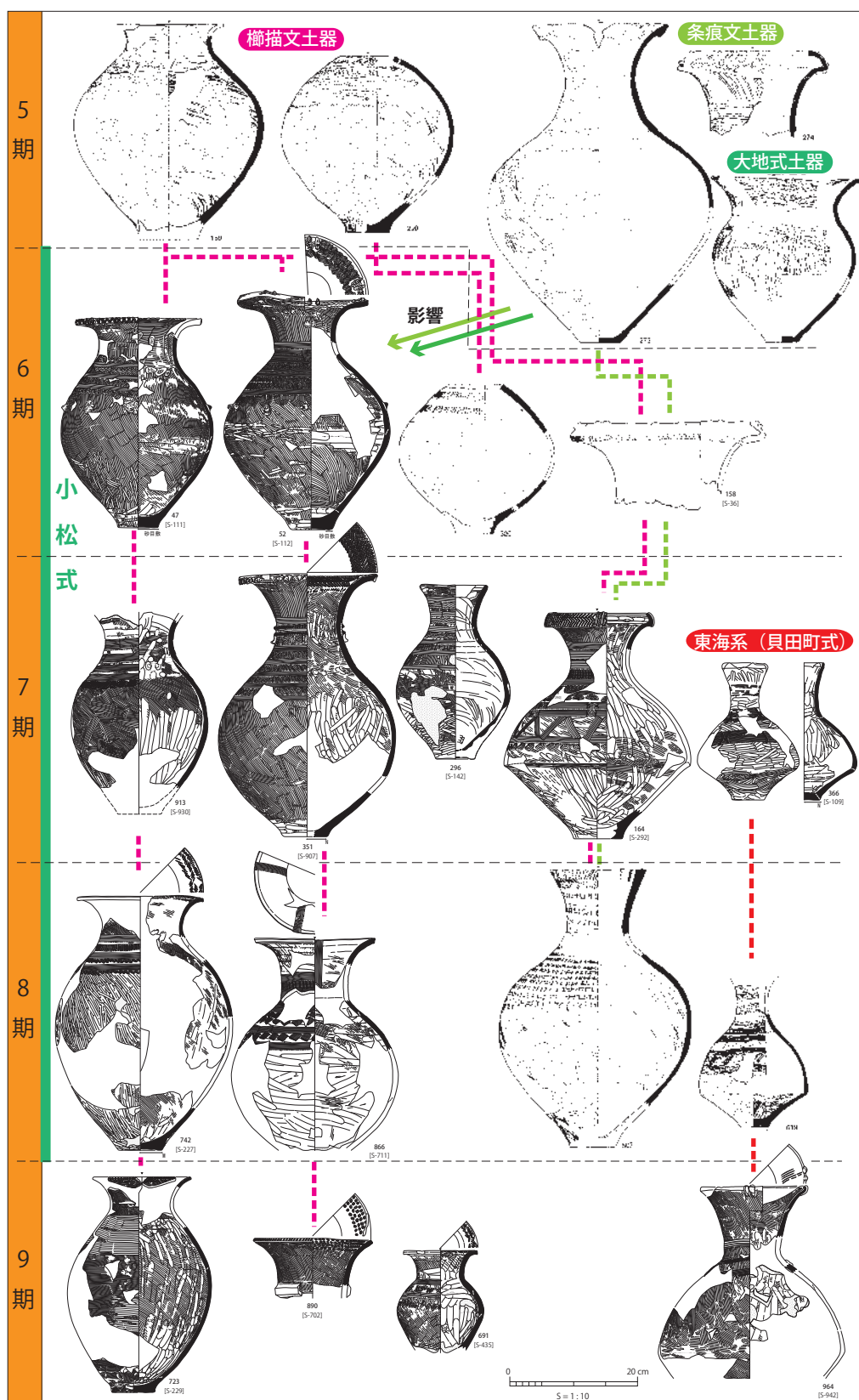


掲載地図出典: 川口地形地図 (掲載番号: 平26情産、第96-4号)
<http://www.gridsapes.net/AIRiversAllLakesTopography>
 (主: 河川・湖沼・加瀬)



【小松式土器の形成】弥生時代中期前葉に、日本海沿岸に祖型をもつ櫛描文土器と、環白山ネットワークでみられた条痕文土器（大地式土器を含む）が共伴する段階を経て、二系統が融合することを起因とする。

【小松式土器の特徴】甕形土器では加飾性が高いことである。大地式土器の特徴の一つである羽状文を継承し、甕形土器の口縁見込み部分に施す。また、条痕文土器の深鉢でみられた口縁の一特徴であった指押圧を継承し、甕形土器の口縁端部には、指の上下からの押圧により小波状に施すものがみられる。



壺形土器では、純粋な櫛描文土器の流れを組む器形に加え、条痕文土器の器形を継承しているものが加わる。いずれもハケ工具で成形を行い、文様は櫛描文土器の特徴である櫛状の結束工具を使用して描かれている。描かれる文様は、直線文と波状文に加え、段階を経て、二系統が融合した結果生み出された北陸独自の斜行短線文や、さらに近郊地の文様素を採用することで、連続文様と単位文の組合せによりバラエティ豊かな構成をもつものである。



撮影：小川忠博

八日市地方出土品（重要文化財）



撮影：田邊朋宏

ちゅうぞうてつ ぶ
鑄造鉄斧の柄



磨製石斧
ませいせきふ





碧玉製管玉工程品



ヒスイ製勾玉



小松式土器

撮影：田邊朋宏

市制 80 周年・八日市地方遺跡発見 90 年記念フォーラム
大規模環濠集落・八日市地方遺跡の存在意義とは

発行日 令和 2 年 9 月 10 日

発 行 小松市埋蔵文化財センター

編 集 小松市埋蔵文化財センター

〒923-0075

石川県小松市原町ト 77-8

TEL 0761-47-5713